

多核種除去設備（既設ALPS）C系 循環ポンプ2C吐出弁フランジ部からの漏えい事象

2019年2月28日

東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

概要及び時系列

■ 概要

- 2019年2月21日、多核種除去設備（既設ALPS）C系、前処理設備2の循環ポンプ2C吐出弁（F212C）下の床面養生シートに水たまりを作業中の協力企業作業員が発見した。
なお、発見時既設ALPS C系はCFF洗浄後の起動準備中であった。
- 漏えい水は、多核種除去設備建屋に留まっており、建屋外への流出はない。

■ 時系列

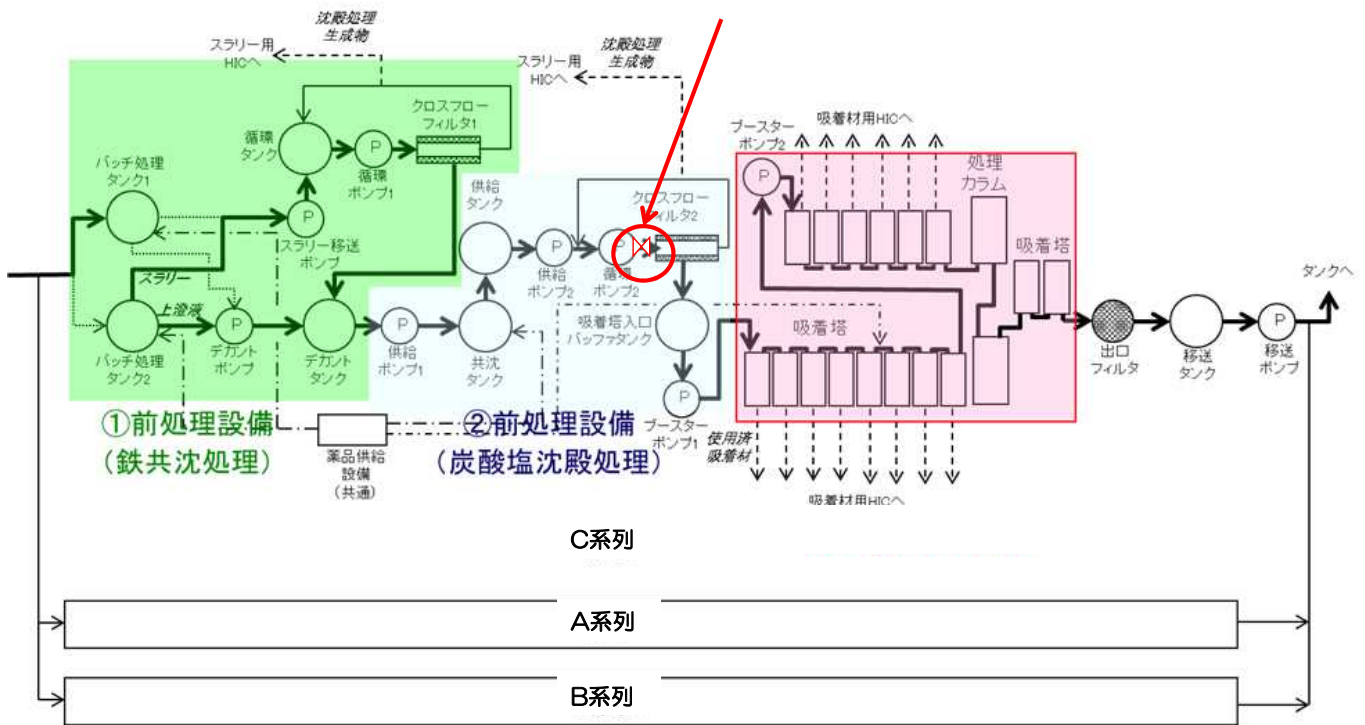
【2月21日】

- 10：32 既設ALPS(C) CFF(C)スキッド2-1内循環ポンプ2C周辺で漏えいを発見
漏えい範囲：床養生シート面 1m×0.5m
- 11：20 循環ポンプ2C吐出弁フランジ部から滴下したと思われる跡を確認した。
なお、周辺機器を含め漏えいがないことを確認
- 12：55 漏えい水水質分析
全β放射能： $1.5 \times 10^4 \text{Bq/L}$ 未満
漏えい量が少ないため簡易測定（検出限界： $1.5 \times 10^4 \text{Bq/L}$ ）を行った。

TEPCO

滴下発生箇所

循環ポンプ2C吐出弁フランジ部



TEPCO

2

漏えいの状況

■漏えいの状況



■今後の対応

水張り漏えい確認を実施した結果、循環ポンプ2C吐出弁 (F212C) の入り口フランジから漏えいが確認された。今後分解点検を実施し、漏えいの原因を調査し、必要な対策を行う。

TEPCO

3